

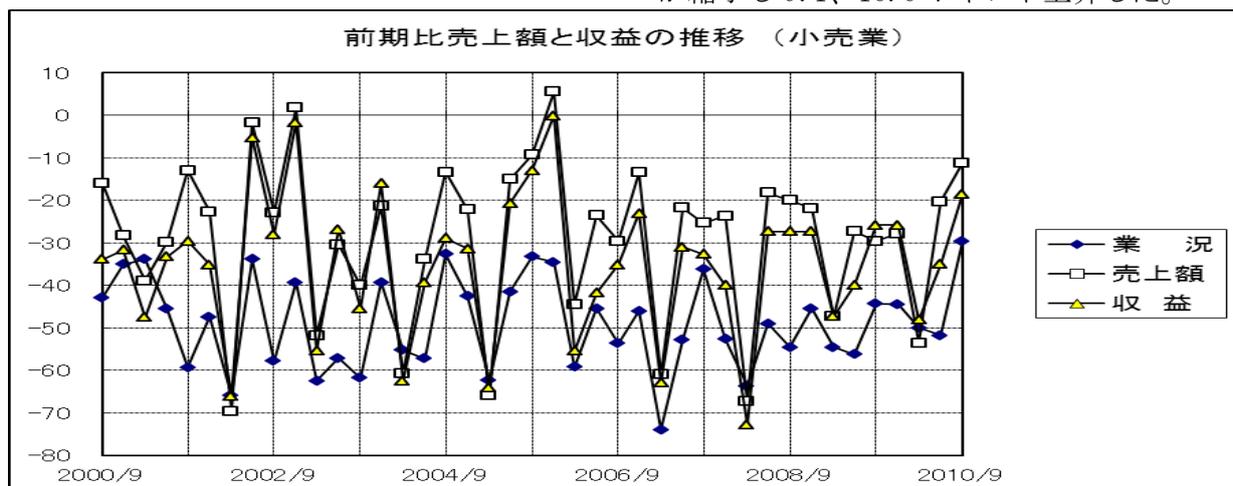
## 小 売 業 54 企 業 ( 回 答 率 100.0% ) の 調 査 結 果 で す

### □ 景 況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業 況	-50.0	-51.8	-29.6	-33.3
売上額	-53.6	-20.3	-11.2	-22.2
収益	-48.1	-35.1	-18.5	-31.5

今期の業況判断DI値は $\Delta 29.6$ と、前期比マイナス値が22.2ポイント縮小した。地区別にみると、静内、三石、えりも、広尾地区が改善し、様似地区が横ばい、浦河地区で悪化している。

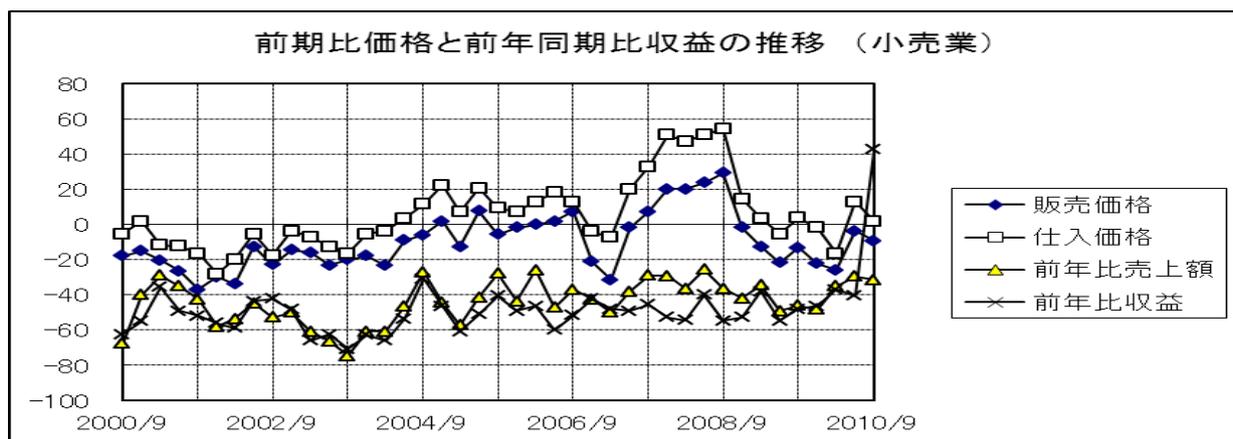
売上額、収益判断DI値は、売上額が $\Delta 11.2$ 、収益が $\Delta 18.5$ と、前期比それぞれマイナス値が縮小し9.1、16.6ポイント上昇した。



### □ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
販売価格	-25.9	-3.7	-9.2	-5.6
仕入価格	-16.6	13.0	1.8	5.5

販売価格判断DI値( $\Delta 9.2$ )は、前期比マイナス値が拡大し5.5ポイント低下、価格低下基調を強めている。仕入価格判断DI値(1.8)は、前期比11.2ポイント縮小、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、衣料品が仕入価格で低下、家電品が販売、仕入価格ともに上昇している。



### □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	-20.4	-13.0	-9.3	-1.9
人手状況	13.0	13.0	5.6	5.6

残業時間判断DI値は $\Delta 9.3$ と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比3.7ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は5.6と、前期比7.4ポイント減少の人手過剰感となっている。

## □ 設備投資の動き

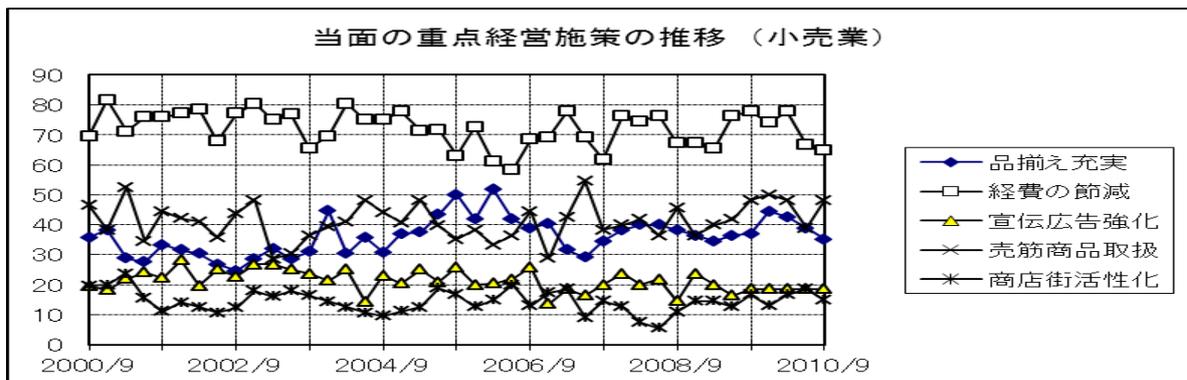
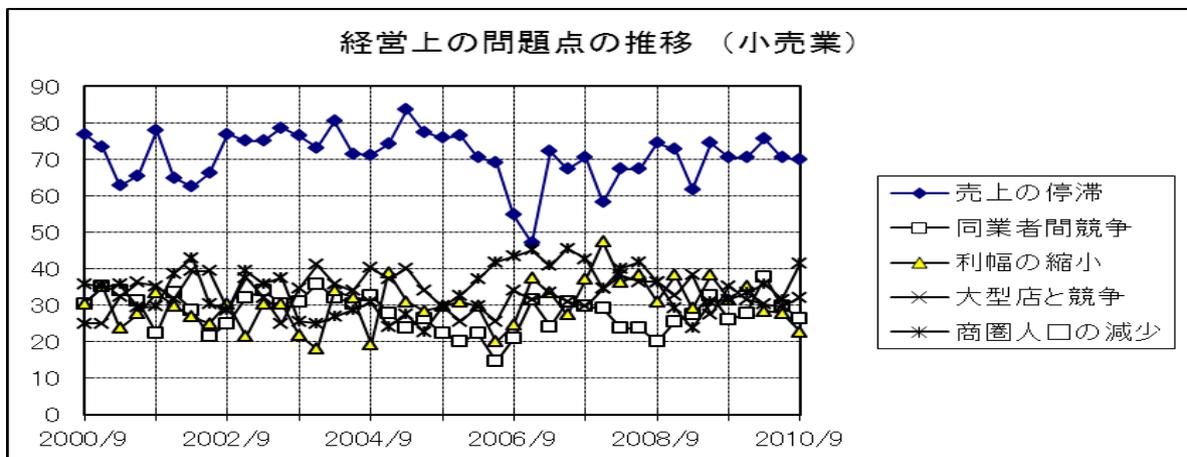
設備投資の充足感を示すD I 値は△12.9 と、前期（△11.1）からマイナス値が拡大し 1.8 ポイント低下、不足感を強める一方、適正と回答した企業は 75.9%と、前期（77.7%）比 1.8 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 9.3%と、前期（11.1%）比 1.8 ポイント低下、件数で前期の 6 社に対し 5 社の実施となった。来期予定は当期比横ばいの 5 社となっている。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 69.8%、次いで「商圏人口の減少」41.5%、「大型店との競合」32.1%、「同業者間との競合」26.4%、「利幅の縮小」22.6%の順に続き、前期との比較では「商圏人口の減少」と回答する企業の割合が多くなっている。業種別にみると、衣料品、食料品が「売上の停滞」、家電品が「大型店との競合」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 64.8%、次いで「売れ筋商品取扱」48.1%、「品揃えの充実」35.2%、「宣伝広告の強化」18.5%、「商店街活性化」14.8%、「新規事業を始める」11.1%の順となっている。業種別にみると、衣料品、食料品、家電品いずれも「経費の節減」、「売れ筋商品取扱」を上位に挙げている。



## □ 来期の見通し

来期（平成 22 年 10～12 月期）の予想業況判断D I 値は△33.3 と、今期（△29.6）実績比 3.7 ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額が△22.2（今期△11.2）、収益が△31.5（今期△18.5）と、今期実績比それぞれマイナス値が拡大し 11.0、13.0 ポイント低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I 値は、販売価格が△5.6（今期△9.2）と、今期実績比マイナス値が縮小 3.6 ポイント上昇、価格低下基調が弱まる見通しとなっているが、仕入価格は 5.5（今期 1.8）と、プラス値が 3.7 ポイント上昇し価格上昇基調が強まる見通しとなっている。

## サービス業 31 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

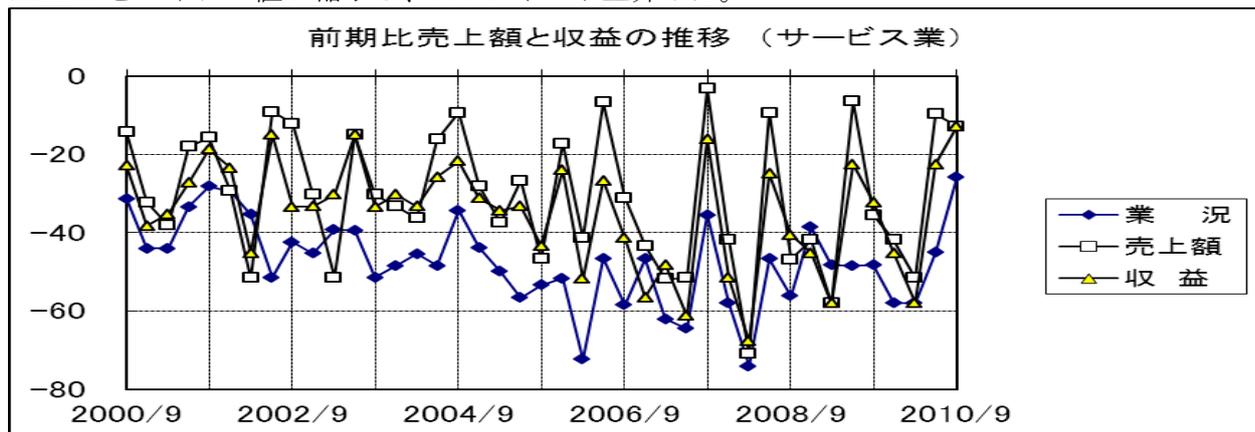
### □ 概 況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業 況	-58.1	-45.1	-25.8	-54.9
売上額	-51.6	-9.7	-12.9	-51.6
収 益	-58.0	-22.6	-12.9	-58.1

今期の業況判断DI値は△25.8と、前期比マイナス値が縮小し19.3ポイントの改善となった。地区別にみると、浦河、静内、広尾地区が改善し、様似、えりも地区は横ばい、三石地区で悪化している。

売上額DI値は△12.9で、前期比マイナス値拡大し3.2ポイント下落した。収益DI値は

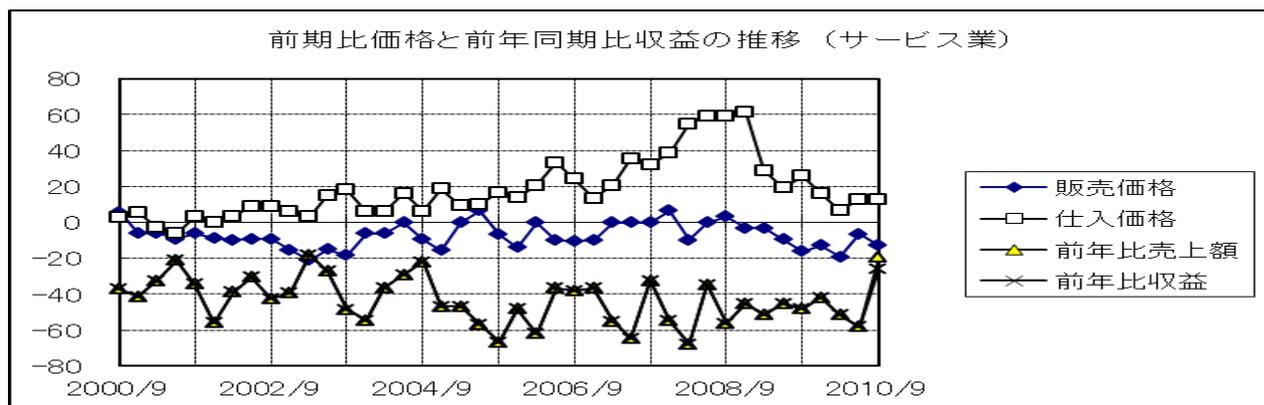
△12.9とマイナス値が縮小し、9.7ポイント上昇した。



### □ 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
料金価格	-19.3	-6.4	-12.9	-22.6
材料価格	6.4	12.9	12.8	3.2

料金価格判断DI値(△12.9)は、前期比マイナス値が拡大し6.5ポイント下落、価格低下基調を強めている。材料価格判断DI値(12.8)は、前期比ほぼ横ばいの価格上昇基調。業種別にみると、旅館が料金価格で低下、材料価格で横ばい、洗濯・理美容が料金、材料価格で上昇。自動車整備が、料金価格で低下、材料価格で上昇している。



### □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-3.2	-25.8	-13.0	-22.6
人手状況	0.0	3.2	-9.7	-6.4

残業時間判断DI値は△13.0と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比12.8ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は△9.7と、前期比プラス値からマイナスに転じ12.9ポイント低下、人手不足感を強めている。

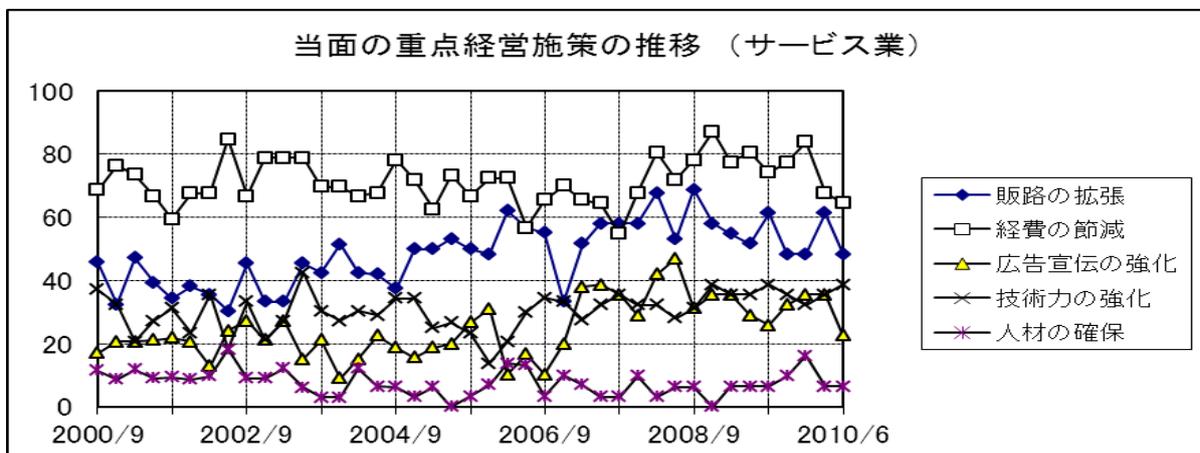
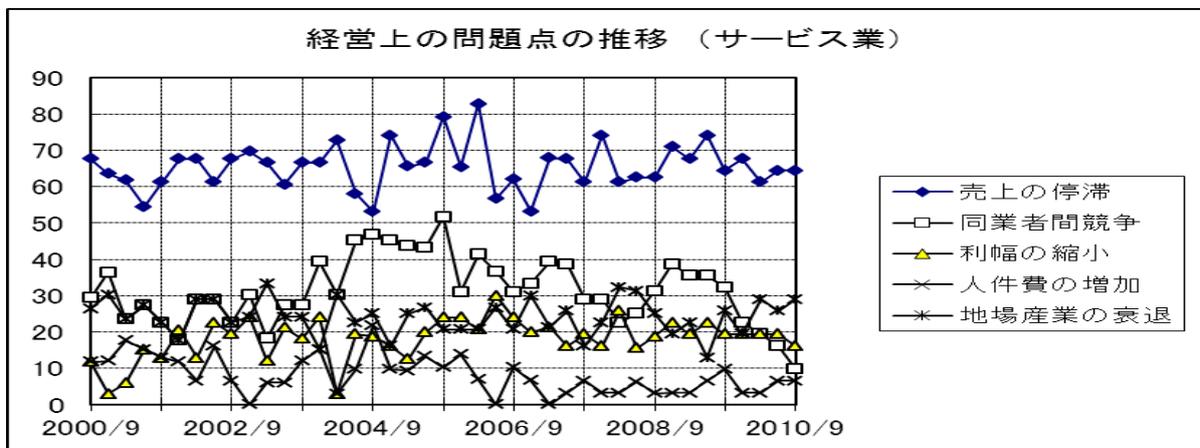
## □ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD I 値は $\Delta 22.6$ と、前期( $\Delta 22.6$ )比同率の不足感となっている。また、適正と回答した企業も71.0%と、前期(71.0%)比同率の数値となっている。

設備投資実施企業割合は12.9%と、前期(12.9%)比同率の数値、件数で前期の4社に対し実施先ゼロとなった。来期予定は4社となっている。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ64.5%、次いで「商圈人口の減少」38.7%、「地場産業の衰退」29.0%、「取引先の減少」19.4%の順に続き、前期との比較では「地場産業の衰退」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、旅館が「天候の不順」、洗濯・理美容、自動車整備が「売上の停滞」をトップに挙げている。重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ64.5%、次いで「販路を広げる」48.4%、「技術力を強化する」38.7%、「宣伝広告の強化」22.6%の順となっている。業種別にみると、旅館が、「宣伝広告の強化」、洗濯・理美容が「経費の節減」、自動車整備が「販路を広げる」をトップに挙げている。



## □ 来期の見通し

来期(平成22年10~12月期)の予想業況判断D I 値は $\Delta 54.9$ と、今期( $\Delta 25.8$ )実績比29.1ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額が $\Delta 51.6$ (今期 $\Delta 12.9$ )、収益が $\Delta 58.1$ (今期 $\Delta 12.9$ )と、今期実績比それぞれマイナス値が拡大し38.7、45.2ポイント低下見通しとなっている。

予想料金、予想材料価格判断D I 値は、料金価格が $\Delta 22.6$ (今期 $\Delta 12.9$ )と、今期実績比マイナス値が拡大し9.7ポイント低下、価格低下基調が強まる一方、材料価格は3.2(今期12.8)と、今期実績比プラス値が縮小し9.6ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。